

感染症一覧表

R5 年 5 月

保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことはもちろん、子どもたちが一日快適に生活出来ることが大切です。乳幼児がよくかかる下記の感染症については、登園の目安を参考に、かかりつけの医師の診断に従い、登園の際には登園届けの提出をお願い致します。

なお、保育園での集団生活に適用出来る状態に回復してから登園するようにご配慮下さい。

感染症名	感染しやすい時期	登園のめやす
麻疹(はしか)	発症1日前から発疹出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状が有る期間(発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い)	発症した日を0日目と考え、翌日から5日を経過し、かつ解熱後3日を経過してから
風しん	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから
水痘(水ぼうそう)	発しん出現1日～2日前からかさぶたになるまで	すべての発しんがかさぶたになってから
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発症3日前から耳下腺腫後4日	耳下腺の腺腫が消失してから
結核		感染のおそれなくなってから
咽頭結膜熱(プール熱)	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え、2日経過してから
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること(抗菌薬を決められた期間服用する。5日間服用後は医師の指示に従う)
腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26、O111等)		医師により感染のおそれがないと認められていること
急性出血性結膜炎		医師により感染のおそれがないと認められていること
溶連菌感染症	適切な抗菌薬を開始する前と開始後1日間	抗菌薬服用後24時間～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅疹(りんご病)	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎(ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要)	発熱や口腔の水疱、潰瘍の影響がなく、普段の食事が取れること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良い
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんがかさぶたになってから
突発性発しん		解熱し、機嫌が良く、全身状態が良いこと
新型コロナウイルス感染症		発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで

※上記にない感染症の場合は、医師とご相談下さい。

◎登園の際に下記の登園届けの提出をお願いします。家庭で保管して頂き、コピーをして提出して下さい。

登園のめやすは、子どもの全身状態が良好であることが基準となります。医師の意見書の提出の必要はありませんが、必ず医師の診断に従い、お子様の全身状態が回復してから登園して下さい。